



岡津

平成29年度のキーワード
「つなぐ^{×3} そして、その先へ。」

<http://www.edu.city.vokohama.jp/sch/es/okazu/>

学校だより 5月号
平成29年4月28日
横浜市立岡津小学校
校長 小竹 護
TEL 811-4104
FAX 812-4586

三つ子の魂百まで 学校長 小竹 護

5月5日は「こどもの日」です。子どものよりよい成長を願い、邪気をはらう薬草でも知られている菖蒲を湯に入れたり、束ねた菖蒲を軒先に吊るしたりするなど様々なことが昔から行われてきました。いつの世でも大人が子どものことを想う気持ちは変わりません。新しい年度が始まってひと月が過ぎました。岡津小学校の子どもたち一人ひとりが希望と目標をもって、一年のスタートを切ったことと思います。



菖蒲の花

さて、先日読んだ本の中に、こんなことが書かれていました。『三歳ぐらいの子どもを連れた母親が、水道工事をしている人たちのそばを通りながら語っています。「おじさんたちが、こうして働いてくださるおかげで、坊やおいしいお水が飲めるのよ。ありがとうと言って通らしましょうね。」同じ所をこれまた幼い子どもを連れた別の母親が通りかかります。「坊やも勉強しないと、こういうお仕事をしないといけなくなるのよ。」同じ仕事に対してこうも違った考えがもてるのでしょうか。最初の母親は、人間はお互い同士支え合って生きること、労働への尊敬と感謝の気持ちを子どもの心に植えつけたのに対し、二番目の母親は、恐ろしいまでに職業に対する偏見と、人間を学歴などで差別する概念を植えつけたのではないのでしょうか。また、会話以上に大切なのは、どんな思いを抱いて働いている人のそばを通るかということです。人は自分もつていないものを人に与えることはできません。感謝の気持ちを子どもたちの心の中に育てたいのならば、まずは普段から「ありがとう」の言葉を生活の中で発していくことが大切なのです。』

三歳ごろまでに受けた教育によって形成された性質・性格は、百歳になっても根底は変わらない、といわれます。大人の行動は知らない間に子どもへのメッセージとして伝わり、知らず知らずのうちに子どもの「価値観」へと変化していきます。学校では、指導者の考えや言動が重要だと考えます。一日の多くの時間間に接していることを自覚し、最後まで丁寧に子どもたちへの指導・支援をしていこうと思っています。

◎子どもは親や教師の「いう通り」にならないが、「する通り」になる。渡辺和子著『置かれた場所で咲きなさい』